



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 24

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 24. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1954, 24: 24-28

ISSUE DATE:

1954-09-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186855>

RIGHT:

録 事

8月に入ってから先月とうってかわって晴天が月の終りまで続いたので、不作を予想されていた稲の穂も挽回できたのであろうが、同時に水族館もひどいさつぱたという態である。8日の台風5号も大したこともなくてすんだが、南窓のガラスがノ枚吹き飛ばされた枯枝のためにこわれた。台風の度毎にこの心配があるので、南側のガラス窓には、全部風よけの鍍戸を取りつけるようにしなければならぬ。

番所山植物園との共同工事による博物館横の雨水吸収溜池も予定通り、今月中に完成した。博物館側より広場低地に流れ込む雨水をこの池に導くためには、道路傍のコンクリートを博物館の西端まで延長し、ここから土管を溜池まで布設することにした。秋に入ってから、この池の周囲に植芝植樹やベンチ兼用の蔭棚が植物園側の手によって作られる筈。

広場隅の井戸の底をさらえた所、底のコンクリートの外枠に亀裂が入って、井戸水を濁すことが判ったので、更に木製の枠を底にはめこむことにした。

このたび番所岬突端に小規模の無人燈台が設けられることになり、目下細尾建設株式会社の手により工事中であるが、9月中旬までには完成する予定。これで附近に名所が一つふえることにもなり、附近を航行する船にとっては少なからぬ助けとなるであろう。

8月中の特別行事としては、14日午後2時から博物館階上講堂で、南紀生物同好会の創立5周年記念の總會並びに講演會が、夜は実験所寄宿舎で海岸生物の原色生態写真の映写會が行われた。聴講者約26名。翌15日には南紀佐本村で植物採集會が行われた。

業 務 概 況

◎ 8月の入場者数

区 分	水族館 発売数		明光バス 発売数		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
大 人	5326	26553	10616	54676	15942	81229
小 人	1535	3228	1060	1720	2595	4948
団 体	3122	28791			3122	28791
合 計	9983	58572	11676	56396	21659	114968
無料入場者 縣下孤児収容所児童他					308	849

◎ 8月の収入

(累 計)

観覧券売上金	389,069	2,104,932
雑 収 入	195	9,514
7月1日の繰越し	406,711	
計	795,975	

◎ 8月の支出

一般経費

費 目 別	金 額	累 計	備 考
人件費	50,284	307,675	
光熱費	11,282	42,840	
消耗品費	2,169	18,265	
備品費	2,670	19,180	
修理費	4,210	34,508	
資料費	23,505	85,060	
厚生費	1,730	9,170	
借入頂料費	—	—	
諸般公課	—	3,451	
雑 費	2,55	3,340	
通信運搬費	2,160	7,694	
研究費	—	12,000	
旅 費	—	220	
合 計	98,265	543,403	

水族館改善費

項目	金額	累計	備考
水族館工事	91,500	91,500	租物園要局工事の折半額
魚池工事	23,930	23,930	
合計	115,430	115,430	

実験所費

項目別	金額	累計	備考
合計	—	506,170	

博物館費

項目別	金額	累計	備考
人件費	2,800	22,285	
消耗品費	—	170	
修理費	—	6,330	
備品費	13,500	16,665	23,9123代
合計	17,300	45,450	

積立金

項目別	金額	引当高	現在高	備考
バスター基金	9,100		123,700	
賞子	9,100		80,534	
厚生	1,500		9,852	
災害時予備金	125		637,561.50	貸金返済等2000.
会議費積立金	—		20,865	
積立基金	64,840		350,210	
合計	84,665		1,213,322.50	

支出合計

		(累計)
一般経費	98,265	543,403
水族館改善費	115,430	115,430
実験所費	—	506,170
博物館費	17,300	45,450
積立金	84,665	502,467
計	315,660	1,712,920

8月末現在高 480,315

支出合計 1,712,920

◎前年度との比較

	1953	1954	増減
入場者数	5348	21659	+ 16311
売上金	87,340	389,069	+ 301,729
支出金	152,666	315,660	+ 163,054

水族館記事

- ◎ 2月中の長雨に采られて水槽に魚類が不足していたが、上旬には館員の手によりメイドフルの小魚が澤山入れられ、下旬には雑賀崎や瀬戸等の漁師から約380尾の魚を購入したので、一時に魚が水槽にあふれるばかりに豊富になった。夏に最も多く入るものはアカハタとカマハギである。
- ◎ これらの購入魚類は、いちいち良否を選別して入槽できないせいもあるが、アカハタ、カサゴ、ウミヒコイ、エソの類は、1、2日で死ぬものが多い。
- ◎ アカウミガメは、今月も数回にわたって上陸したようであるが、その中22日サンマーハウス下で学生によつて捕えられたものを1匹收容することにした。現在アカウミガメ2匹、アオウミガメ3匹、ベツコウ1匹。
- ◎ タイの本場に近い玉野市の水族館では、タイが一番飼いにいと伝えられるが、当館の水槽では反対にタイが最も長生きである。その中の最も大物である目つからのマタイは水槽に入れられてから約10年の生命を保っていたが、遂に29日館員に惜しまれながら死亡した。
- ◎ ユミウシ類の中で最も美しいと云われるミカドユミウシが3日に四双島で採れて、水槽に入れられたが、月末になって衰弱して死んでしまった。

博物館記事

- ◎ 大阪学芸大学教授馬場菊太郎博士より自ら各地で撮影された海岸動物の生態写真23葉の寄贈をうけた。

夏

資料

◎ 8月の気象

	上旬	中旬	下旬
晴天日数(日)	9	8	8
気温(℃)	$\frac{26.7-29.7}{28.1}$	$\frac{27.0-30.1}{28.8}$	$\frac{26.0-29.0}{27.8}$
水温(℃)	$\frac{26.0-28.5}{27.4}$	$\frac{27.2-28.8}{28.1}$	$\frac{27.5-28.3}{27.7}$
比重	$\frac{21.8-22.8}{22.3}$	$\frac{20.4-22.2}{21.5}$	$\frac{20.8-21.7}{21.0}$

但し { 気温は水槽室
水温は No. 24 水槽
比重は No. 24 水槽 } で 10 時に測定

来訪録

今月より田辺市に NHK 和歌山放送局の通信部が設けられるのを機会に挨拶のため同局員が来所された。今后同通信員により水族館の ニュース が電波に乗る機会も多からう。(8. 24.)
かねてより四國の今治市より水族館設置計画につき参考資料提示の依頼があったので、本日回答した。(8. 25.)

昭和29年9月3日発行

(No. 24)

編集兼
発行人

内海富士夫

発行所

瀬戸臨海実験所振興會

和歌山縣 白浜町
瀬戸臨海実験所内
(電話・白浜温泉515)